



自己紹介



出身は埼玉県で、高校卒業後、東京農業大学のオホーツクキャンパスに進学しました。現在大学院2年生。大学の4年と合わせて、網走で暮らして6年になります。大学院では、オホーツク地域でも実現可能なグリーンツーリズムの体制整備について研究しています。

網走の第一印象は、必要なお店などが何でもあるなと思いました。大自然に囲まれつつとても暮らしやすい、魅力的なまちです。

民泊を始めたきっかけ

以前ニュージーランドに長期滞在したときに、バックパッカーズ（ゲストハウス）に宿泊し、宿泊客同士でバーベキューをしたり、友達になって一緒に旅したり、海外の方々と交流できる宿泊スタイルにとっても魅力を感じました。帰国してから、バックパッカーズのような場所が北海道にもあったらいいのになと思い、だったら自分が網走でできないだろうかと思案し始めました。簡易宿所の許可について調べたり、物件を探したりしているうちに、民泊なら、簡易宿所よりも小規模で手軽に始められると考え、チャレンジすることにしました。これまで暮らしてきた中で、助けてくれる方々と出会えて、そうした方々から支えていただいたことも大きかったです。

魅力は何といっても、海外の人と交流できること。自分が海外に行かなくても交流できて、無料で英会話もできて、お得感があります(笑)。



民泊をやってみて…

民泊を始めるにあたっては、周囲に理解してもらうことが大事だと思ったので、事前にご近所に名刺とチラシを持ってあいさつに行き、何かあったら連絡をくださいとお願いしてきました。周囲の方々からも、気にかけていただいていると感じています。お客さんの子どもが「港でフィッシャーマンにキャンディをもらったんだ」と喜んでいたときは、ああご近所のあの漁師さんかな、と思ったり。

あるとき、「コンビニで、外国人のグループが智江さんに会えなくて困っている、と言っています」と、知らない方から電話がかかってきました。慌ててコンビニに行ってみると、私が作ったチラシを店内に掲示してくれていて、それを見た親切な方が連絡をくださったとのことでした。

事前にお知らせしておいてよかったと思いました。

また、ある日本人のご家族は、おばあちゃんと一緒に旅行するので、階段の上り下りがない方が楽だからと、1階だけで宿泊できる私の民泊を選んでくださいました。驚きでもあり嬉しく思い印象に残りました。現状、民泊を利用するのは外国から来る方が多いですが、日本の方にもたくさん利用してもらおうことが、民泊が日本で受け入れられるポイントなのではと思っています。



網走市のおすすめ

能取岬

都会から来たお客さんは、網走の自然を楽しみにしています。映画などのロケ地にもなっていて有名な場所ですが、岬に向かう途中の道端で野生のエゾシカやキタキツネなどを見かけるだけでも面白いみたいです。



濤沸湖

すぐ近くに野鳥観察館があり、野鳥や景色に感動してもらえます。



学業との両立



学生アルバイトの定番は飲食店などですが、勤務日の希望は出せても最終的にスケジュールを決めるのはお店側なので、アルバイトをベースに自分の予定を立てることになってしまうと思います。一方、民泊なら働く日を自分でコントロールできるので、研究を生活の中心にすることができ、学業との両立は十分可能です。例えば、試験や課題の準備で忙しい時期は宿泊予約を受けないようにして、勉強に集中します。うっかり課題の提出期限直前に予約を受けてしまい、時間がない中掃除に追われたこともありましたが…。民泊は臨機応変な対応が求められるし、大変勉強になると思います。

今年は1年目ですし、私にとっては大学院卒業が大事なので、幅を広げすぎないように、まずは受け入れを一生懸命やっています。ただ、苦勞しているのは、確定申告の準備。会計ソフトを導入したり、書類を用意したり、初めてのことばかりでいろいろ作業がありますが、頑張っています。

今後は…

この春大学院卒業ですが、このまま網走にとどまり、この民泊を核にオホーツクの魅力の発信に本格的に取り組んでいきたいです。地域の活動や、近くの農家さん、観光施設等と連携した取組もやってみたいですし、将来的にはもう少し規模を広げて、雇用もできるようにしたいと思っています。

「卒業後も網走に住みたい」と口にする学生はいますが、卒業生の多くは大都市に出て行ってしまうのが実情です。1人でも網走に住み続ける人が増えるよう、学生の起業への足がかりをサポートできるような、後輩のアドバイザーのような立場になることも目標です。

